

教育課程実践モデル事業 EAST通信 第16号 (H30. 3. 28) 松江東高等学校

この1年、本校が島根県教育委員会より2年間指定を受けております「教育課程実践モデル事業」に関しまして様々なことにチャレンジしてまいりました。この間、本校運営指導委員の先生方をはじめ、島根大学、島根県立大学等の大学関係者の皆さま、そして、他校から参加していただいた多くの皆さまにもたいへんお世話になりました。誠にありがとうございました。

また、本事業関連の報告として昨年8月30日から発行してまいりました『EAST 通信』も、今回で第16号となります。毎号発行のたびに多くの皆さまからご声援をいただき、本事業を進めていく上でたいへん大きな励みとなりました。重ねてお礼申し上げます。次年度につきましてもよろしくお願いいたします。

さて、今回は、3月20日に行いました「教育課程実践モデル事業に関わる校内研修会」を主として報告し、本事業今年度のまとめといたします。

今回の研修は「本事業2年次に向けて、カリキュラム・マネジメントを校内により浸透させ働かせ、取り組みを学校全体のものにしていくため、本事業における1年次の課題を学校全体で共有する」といった目的のもとに、本校内の教職員のみを対象として開催しました。

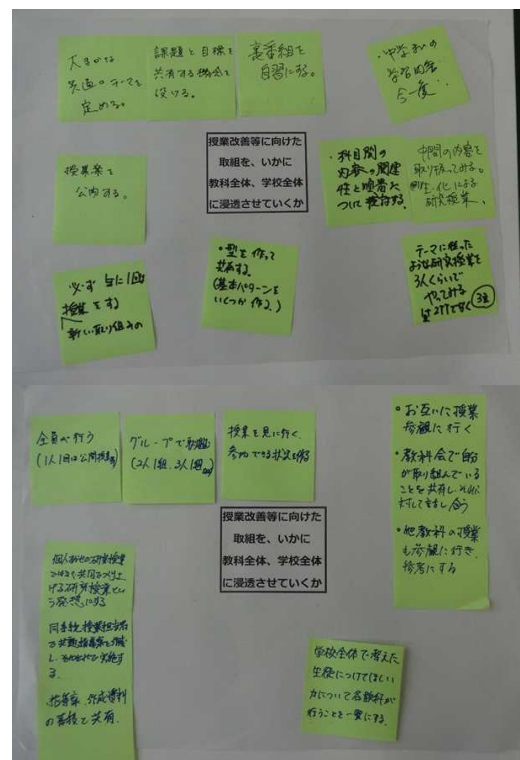
まずはじめに、発表①「中間報告会でのグループ協議の内容から」として、小橋主幹教諭より1月25日に開催した実践研究校中間報告会で行われたグループ協議にもとづき、「各グループでどのような協議がおこなわれたか知ることで、本事業における1年次の課題を共有する契機とする」といった趣旨の説明がありました。併せて、次年度に向けて授業改善等に向けた取り組みをいかに教科全体、学校全体に浸透させていくかといったことについて、各グループ協議やモデルの会（モデル事業メインスタッフの会）から出た意見の報告がありました。主な意見は以下のとおりです。

[グループ協議で出た主な意見より]

- 1) 年間1人1回（教育課程実践モデル事業の目標に沿った）授業を公開して、授業協議を行う。
 - ・公開授業週間の回数を増やし期間も伸ばす。
 - ・短時間でも授業参観をする。
 - ・互見授業の活性化を図る。
 - ・授業を材料に問題のとらえ方や考え方を話し合う。
- 2) 授業評価を改善する。
 - ・項目を再検討する。
 - ・記述式、無記名とする。
 - ・どの改善が効果的だったか話す機会を設ける。

[モデルの会のまとめより]

- 1) 次年度は、授業改善への取り組みについて教科主任会や各教科内で協議していく。
 - ・メインスタッフを中心に年度計画を立て、教科主任会をとおして各教科に提案する。
 - ・2020年以降の入試改革（来年度1年生からの新大学入試）への対応等、進路指導的観点も視野に入れる。
 - ・各教科会で、授業改善に向けて教科としてどのように取り組むのか話し合う。
 - ・教科主任会、運営委員会、職員会、研修会等をとおして、授業改善に対する共通理解を持ち、各教科の授業実践への取り組みを学校全体で共有する。
- 2) 授業アンケート・授業評価の見直しを図る。
 - ・授業アンケートの内容や実施時期、方法等について検討する。
 - ・目的に即したアンケートによる効果的なエビデンスとして活用する。



次に、発表②「研修報告I」として、森本教諭により2月14日に福岡県で開催された「平成29年度次世代型教育推進総括セミナー」についての参加報告がありました。森本教諭の報告は、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の実現に向け、平成27～29年度において独立

行政法人教職員支援機構が実施したプロジェクトに関わる研修の報告として、指導方法等の授業改善の大きなヒントとなるものでした。

なお、森本教諭の研修報告については、『EAST通信第14号』にも詳細が掲載されています。そこには広島県や徳島県、福岡県の取り組みの紹介と、「実践を通してアクティブラーニングを考える」と題した長野県の谷内祐樹先生の発表と京都大学の石井英真先生の講義についての要点がまとめられています。ぜひ今一度お読みください。

続いて「研修報告Ⅱ」として、矢上教諭により9月4日から11月8日まで約2ヵ月間の特別支援教育に関わる長期派遣研修「国立特別支援教育総合研究所特別支援研修」の成果報告がありました。

研修の様子や特別支援教育とは何かといった基本の投げかけに始まり、講義内容や研究協議、見学研修等についての報告、研究所内の様子や教材・教具について、また、インクルーシブ教育システムについての詳しい報告等がありました。

現在、どの学校でも授業改善において特別支援教育の考え方を入れていくことは不可欠となってきています。それぞれの生徒が、授業内容がわかり、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうか、アクティブ・ラーニングでも、インクルーシブ教育システムの構築においても最も本質的な視点となります。このことについて今回の発表で認識を深める契機となりました。

最後は、永瀬校長先生による講義で締めくくられました。「お伝えしたいこと」と題して、現役最後の教員生活を本校で過ごされた思いを本校教職員に対して熱く語っていただきました。なお、講義の内容（項目）は以下のとおりです。詳細につきましては紙面の都合により割愛させていただきます。

- 1 生徒を中心に考えてみる
- 2 バランス感覚を大切にする
- 3 つながりを大切にする
- 4 アンテナは高く張る

最後に、本校の合言葉「自立への道程（みち）」に永瀬校長先生が込められた想いについて、次のようなメッセージを伝えられました。

「自立への道程」への想い

自分自身の考えをしっかりと持ち、どんな困難をも乗り越えていける力を身に付け、社会に出たときに通用し、社会の一員として貢献できる人になってほしい。



「精神的自立」+「社会的自立」



【校長先生による最後の授業が行われました】 ※本校HPより転載。

3月22日（木）6限、2年生の理系クラスにて永瀬校長先生による数学の授業が行われました。

校長先生は今年退職されるため、今回が最後の授業となります。校長先生の授業を見ようと、校内や校外からも多くの教員が参加しました。

授業の初めに、実際に島根大学の入試で出た問題を解けるようになることが最終目標だと伝えられました。そして、生徒の反応を見て軌道修正をしながら進行されました。

緊張感がありながらも、和やかな雰囲気での授業は終わりました。

授業の最後には生徒から花束のプレゼントもありました。

